



令和 7 年

## 第 3 回 名寄市議会定例会行政報告

名 寄 市

---

---

“市民と行政との協働によるまちづくり”	1
・ 交流活動の推進	1
・ 健全な財政運営	1
“市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”	2
・ 国民健康保険	2
“自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”	3
・ 消防	3
・ 上水道の整備	4
“地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”	4
・ 農業・農村の振興	4
“生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”	5
・ 小中学校教育の充実	5
・ 大学教育の充実	5
・ 生涯スポーツの振興	6
・ 青少年の健全育成	7
・ 地域文化の継承と創造	7

---

---

本日、令和7年第3回定例会の開会にあたり、これまでの主な行政事項について、その概要をご報告申し上げます。

## **“市民と行政との協働によるまちづくり”**

### **交流活動の推進**

はじめに、交流活動の推進について申し上げます。

山形県鶴岡市との交流事業については、令和8年で姉妹都市盟約30周年を迎えるにあたり、昨年度大雨の影響により来名することが叶わなかった「てっし名寄まつり」に、今年は藤島・名寄交流友の会の小野会長をはじめ10人が7月27日に来名され、市民との交流を深めたほか、北国博物館やなよろ市立天文台「きたすばる」の見学などを行いました。

### **健全な財政運営**

次に、行財政改革の推進について申し上げます。

本市は、少子高齢化、人口減少に直面し、更には市税や地方交付税などの一般財源歳入の大幅な伸びは見込めない状況です。

歳出では、物価高騰や人件費の増加、社会保障施策に要する経費の増加など、多くの課題に直面しており、財政面において厳しい状況に置かれています。

将来世代に過大な負担を残さずに、限られた財源を効果的に活用するため、事業の選択と集中を行い、将来を見据えた持続可能で健全な財政運営に努める必要があります。

そのような中、7月に第1回目の行財政改革推進実施本部会議を開催し、令和7年度の方針を示すとともに令和8年度予算に向け一般財源ベースで5億円の削減を目標としました。

全職員が自分事として行財政改革に取り組まなければこの目標は達成はできないものと考えており、様々な視点から行財政改革に取り組み、持続可能なまちづくりを進めてまいります。

## **“市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”**

### **国民健康保険**

次に、国民健康保険事業について申し上げます。

税制改正に伴い、基礎課税分及び後期高齢者支援金課税分に係る限度額、並びに軽減判定所得の基準額の改正を行いました。

当初賦課の状況は、加入者が4,164人で前年度比223人の減、世帯数は、2,910世帯で前年度比106世帯の減となりました。

軽減の対象は、7割軽減が1,066世帯、5割軽減が453世帯、2割軽減が348世帯となり、全体では国保加入世帯の64.1%にあたる1,867世帯となりました。

## “自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”

### 消防

次に、消防事業について申し上げます。

8月22日に、第77回北海道消防大会を市民文化センターE N-R A Yホールにて開催し、全道各地から約700人の消防職・団員が参加しました。また、来賓として、北海道知事、総務省消防庁長官、日本消防協会会長、北海道議会議長など、約100人のご出席をいただき、地域消防の中核を担う消防団の活動に敬意を表し、その功績を広く称えました。

前日の21日には、歓迎交流会を開催し、消防行政や地域防災に関する意見交換が行われたほか、本市の魅力や地域資源のPRも行われ、参加者間の交流と親睦が深まりました。

式典では、名寄消防団の宮下団長が日本消防協会より授与された表彰旗を会場で披露したほか、風連消防団には北海道消防協会から表彰旗が授与され、山崎団長が代表して受領しました。

いずれも、長年にわたる地域防災活動への貢献に対するものであり、大変名誉ある受賞となりました。

本大会を通じて、地域の安全・安心を支える消防団の重要性が改めて確認され、団員相互の結束と士気のさらなる向上が図られました。

## **上水道の整備**

次に、水道事業について申し上げます。

老朽化する施設の更新や安全な水の安定供給を維持するため、本年9月から水道料金の改定を行います。

改定にあたり、これまで計4回の住民説明会を開催したほか、広報なよろへの掲載、市ホームページでの情報発信、各戸へのチラシ配布など市民周知に努めてきました。また、検針サイクル変更に伴い、対象地区への周知を行いました。

## **“地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”**

### **農業・農村の振興**

次に、産業まつりについて申し上げます。

8月24日に、「もち米日本一フェスタ」第47回なよろ産業まつりを浅江島公園にて開催しました。

会場では本市の各種産業の体験や農産物や飲食物の販売、ステージイベント等の多彩な催しが行われ、市民など多くの皆様にご来場いただきました。

山形県鶴岡市や、株式会社赤福をはじめご協力をいただいた関係機関・団体の皆様にお礼申し上げます。

## “生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”

### 小中学校教育の充実

次に、英語力の向上に向けた取組について申し上げます。

7月11日に、市内小中学校で英語を担当している教員を対象とした「第1回名寄市英語教育小中連携協議会」を開催しました。本協議会では、各学校における指導体制の強化など、本市が進める英語教育について説明するほか、「子どもたちのアウトプット」をテーマに2学期の授業に生かすことができる言語活動の具体的な実践について検討しました。

また、オーストラリア出身の30代男性とアメリカ出身の20代女性のALTが着任しました。ALTは2学期から2人増員となり、児童生徒の生きた英語に触れる機会の充実・拡大などが図られています。

### 大学教育の充実

次に、大学教育の充実について申し上げます。

名寄市立大学が市民にとって価値あるものであり、受験生から選ばれる大学として維持・発展していくために必要な経営形態などについて検討するために設置した「名寄市立大学在り方検討委員会」から、8月12日に答申をいただきました。

市議会においても、名寄市立大学の経営に関する調査特別委員会を設置して、ご議論をいただいていることから、その報告と名寄市立大学在り方検討委員会からの答申をもとに、今後の経営形態のあり方について、名寄市立大学の設置者として一定の方針を示したいと考えています。

### **生涯スポーツの振興**

次に、生涯スポーツの振興について申し上げます。

本市が提案していました、名寄市スポーツ協会、風連町スポーツ協会、Nスポーツコミッションの3団体による組織統合については、約3年にわたる協議を経て、地域におけるスポーツのプラットフォームとして「Nスポーツコミッションなよろ」が6月28日に設立されました。

この間、3団体の会長をはじめ、役員及び加盟団体の皆様には、スポーツ団体組織統合検討会議や新法人設立準備委員会などを通じて、それぞれに難しい判断と決断をしていただきました。皆様のご尽力に、心より感謝を申し上げます。

「Nスポーツコミッションなよろ」には、これまで各団体が長年にわたり取り組んでこられた競技の普及や競技力向上の推進に加え、人口減少が進む中で、市民生活の質向上や新たなコミュニティ形成、

地域経済活性化など、スポーツを活用した地域づくりへの貢献を大いに期待しています。

## **青少年の健全育成**

次に、ブックスタート事業について申し上げます。

本事業は、乳幼児とその保護者への絵本の読み聞かせと絵本、子育てパンフレット、図書館の利用案内などのプレゼントにより、親子の心ふれあうひとときを持つきっかけづくりと読書習慣の定着を目指し、本年度から開始しました。

8月10日には、図書館での「おはなしクラブ」の際に、3歳児とその保護者に対して、20日には、保健センターでの4カ月児健診の際に、4カ月児とその保護者に対して、絵本とふれあうことの大切さや楽しさを伝えながら、絵本などを手渡しました。

## **地域文化の継承と創造**

次に、S L排雪列車キマロキ展示保存50年記念事業について申し上げます。

7月19日から21日まで、キマロキ保存会の主催により「キマロキまつり」が北国博物館とキマロキ車両周辺で開催されました。

期間中は、市民や全国各地の鉄道愛好家など約1,100人が訪れ、

ミニ新幹線の乗車体験、鉄道模型の操作体験、キマロキ清掃体験、移動式天文台車「ポラリス2号」による太陽観察などの多彩なプログラムや、特別展「排雪列車キマロキ展示保存50年・深名線廃止30年記念展」を楽しんでいただきました。

また、特別展の関連企画として、7月20日には、写真家で東京なよろ会副会長でもある工藤裕之氏くどうひろゆきを講師に招き、駅前交流プラザ「よろーな」で「名寄の宝 キマロキの活用法と宗谷本線の未来」をテーマにご講演いただいたほか、8月11日には、北国博物館で木工クラブ講座「蒸気機関車と客車をつくろう」を開催し、市内外に地域の宝であるキマロキをPRする機会となりました。

以上、主な行政事項について、その概要を申し上げ報告といたします。